

令和6年9月10日

静岡県中央新幹線対策本部長

静岡県副知事 森 貴志 様

東海旅客鉄道株式会社

代表取締役副社長 水野 孝則

静岡県内の高速長尺先進ボーリング調査実施の了解について(要請)

当社は、本年5月20日より静岡県・山梨県の県境から山梨側501mの地点より高速長尺先進ボーリングによる調査を再開し、9月6日時点で県境から316mまでの位置まで調査を進めているところです。ボーリング調査により地質や湧水の状況を把握することが、皆様の安心に繋がると考えており、今後、県境を越えて静岡県内においても調査を実施したいと考えています。

ボーリング調査に当たっては、令和6年5月13日に開催された静岡県中央新幹線環境保全連絡会議第16回地質構造・水資源部会専門部会において当社がご説明した内容(別添資料1)について、科学的・工学的な観点から一定のリスク管理がなされることをご確認頂きました。

さらに、田代ダムの取水停止期間中は、取水停止により大井川の流量が増加しておりますので、静岡県内のボーリング調査による県外流出量が取水停止による流量増加分より少ないことを確認のうえ、取水抑制を実施しない(大井川に戻さない)ことについても、この専門部会において容認できるとされました。田代ダムの取水停止期間終了後の取扱いについては、令和7年11月までに静岡県と協議し、合意します。

また、令和6年6月4日付で、当社代表取締役副社長から静岡県中央新幹線対策本部長宛てに回答した「岐阜県内で発生した井戸等の水位低下の事象を踏まえた高速長尺先進ボーリングの対応等について」(別添資料2)において、追加のリスク管理をお示しし、専門部会でより一層リスク管理が強化されると技術的にご確認頂きました。これらに基づいて調査を進め、リスク管理を行うとともに、調査状況についても報告します。

上記の取扱いにつきましては、逐次、県から大井川利水関係協議会(以下、「協議会」という。)の会員の方々に状況をお伝えいただくとともに、当社においても説明をさせて頂いているところではありますが、地元のご理解とご協力が不可欠でありますので、静岡県内におけるボーリング調査を実施するにあたり、協議会のご了解を得たいと考えております。

つきましては、事務局である静岡県におかれましては、協議会の方々のご意向を確認のうえで、回答いただくようお願い申し上げます。

以上